

県美プレミアム 収蔵品によるテーマ展示

2016年 11.19^土 – 2017年 3.19^日

展示室 6

展示室 1

展示室 2

展示室 3

展示室 4

展示室 5

小企画
 ハナヤ勘兵衛
 の時代デエ!!

特集
 彫刻大集合



9. ハナヤ勘兵衛《フォトモンタージュ（今日も楽しい）》1933年



1. ヤノベケンジ《FERRIS WHEEL》2007年

展示室 5 安藤忠雄コーナー

小磯良平記念室

金山平三記念室



「彫刻大集合」のみどころ

- 当館の前身である近代美術館時代から収集の柱としてきた近代彫刻の主な作品を展示します。
- 近代から現代まで、彫刻や立体の変遷が分かる構成です。
- 1階の5つの展示室は、安藤忠雄コーナー以外すべてを使用します。3つの大空間と、2つの小空間からなります。

「ハナヤ勘兵衛の時代デェ!!」のみどころ

- 戦前から戦後にかけて兵庫県芦屋を中心に活躍した写真家、ハナヤ勘兵衛（1903-1991）の回顧展です。
- 戦前にプリントしたものと考えられる、現存数の限られたヴィンテージ・プリントを中心に、戦中から戦後にかけて、大阪を中心に当時の世相を色濃く映し出した作品や、晩年に紀伊半島をモチーフに制作した連作などを出品します。
- あわせて同時代に芦屋カメラクラブで活躍した紅谷吉之助、高麗清治、松原重三らの作品も出品します。

そのほか（p.6参照）のみどころ

- 神戸ゆかりの洋画家、金山平三と小磯良平の代表作をご覧ください。

県美プレミアム

兵庫県立美術館は、前身の近代美術館時代から数えて約45年にわたり収集活動が続けてきました。現在9,000点を超える作品を収蔵しており、それらはこれまでの収集方針を反映して、国内外の近代彫刻と版画、日本近代の名作、兵庫ゆかりの作品、関西の現代美術に大別されるとしても、内容は実に多岐にわたり、一瞥しただけではその総体をとらえきれません。そこで、当館では、1年を3期に区切り、個々に展示のテーマを設けることによって、横断的にコレクションを紹介し、変化ある常設展示室の演出を心がけています。

開催情報

会期：2016年11月19日[土]ー2017年3月19日[日]

休館日：月曜日

年末年始（12月31日、1月1日）

メンテナンス休館（1月2日～1月10日）

開館時間：午前10時ー午後6時

（特別展開催中の金・土曜日は午後8時まで）

※入場は閉館の30分前まで

観覧料金：一般：510（410）〈306〉円

大学生：410（330）〈246〉円

高校生：260（210）〈156〉円

65歳以上：255（205）〈153〉円

中学生以下：無料

※（ ）は20名以上の団体料金

〈 〉は特別展とのセット料金

※65歳以上は一般料金の半額

※障がいのある方は各観覧料金の半額、その介護の方1名は無料

（ただし65歳以上の割引との併用はなし）

会場：兵庫県立美術館 常設展示室

「彫刻大集合」開催趣旨

兵庫県立美術館では、9,000 点を超える収蔵作品を、年三期に分け、テーマを設けて紹介しています。

今回は、当館の収集の柱のひとつである彫刻に焦点を当てます。近代の巨匠から現在活躍する作家まで、彫刻および立体作品約 40 点を展示します。彫刻の流れをたどることができる構成になっていますので、ぜひご高覧ください。また、彫刻に合わせて、平面作品を何点か出品する予定です。

展示構成

展示室 1 人体彫刻の魅力

ロダンにはじまる近代彫刻の巨匠たちの作品を紹介します。西洋彫刻において規範であった人体彫刻を主に展示します。とくにトルソ(手足や、ときには頭部のない、胴体を中心とした彫刻)については、4 点並べる予定です。

主な作品

- ・オーギュスト・ロダン 《オルフェウス》1892 年 ブロンズ
142.5×76×125 cm
- ・エミール＝アントワーヌ・ブールデル 《母と子》1893 年
ブロンズ 53×33, 5×28.5 cm
- ・メダルド・ロッセ 《新聞を読む男》1984 年
ワックス、石膏 28.7×33×32 cm
- ・ヴィルヘルム・レームブルック 《女性のトルソ》
1910-14 年 ブロンズ 116×50×35 cm
- ・アレキサンダー・アーキペンコ 《空間にあるトルソ》
1936 年 ブロンズ 62×151×42.5 cm
- ・マリノ・マリーニ 《少女》1938 年 152.0×43.5×36.5 cm
- ・アリストイド・マイヨール 《コウベのディナ》1943 年
ブロンズ 123×41×35 cm
- ・オシップ・ザッキン 《破壊された街》1947 年 ブロンズ
126×57×50 cm
- ・アルベルト・ジャコメッティ 《石碑 I》1958 年 ブロンズ
167×22.3×20.5 cm
- ・佐藤忠良 《若い女》1961 年 ブロンズ 140×36×34 cm
- ・舟越保武 《ダミアン神父》1975 年 ブロンズ
199.5×64.5×57.5 cm

展示室 1

展示室 2

展示室 3

展示室 4

展示室 5

特集 彫刻大集合



2. オーギュスト・ロダン 《オルフェウス》1892 年

展示室2 抽象の力

西洋美術において 19 世紀後半から徐々に進行していった抽象化の動きは、彫刻にも現れました。20 世紀になると、その動きは加速化し、人体彫刻を大きく変化させたり、人体から解放されたりしました。そうした動きの中で、造形性が高められていったのです。このコーナーでは、抽象化された人体や、完全な抽象彫刻の両方を展示します。

主な作品

- ・ **コンスタンチン・ブランクーシ** 《新生》1920 年
研磨ブロンズ 17×25.5×17 cm
- ・ **バーバラ・ヘップワース** 《曲がった形》1961 年
ブロンズ、紐 57×27×10 cm
- ・ **ジャン・アルプ** 《陽気なトルソ》1965 年 ブロンズ
111×33×33 cm
- ・ **ナウム・ガボ** 《垂直の構成 No.1》1964-65 年
ブロンズ、銅線 103×27×27 cm
- ・ **ナウム・ガボ** 《構成された頭部 No.2》1966 年
コールドステン鋼、着色 178×121.9×121.9 cm



3. コンスタンチン・ブランクーシ《新生》1920 年



4. 山口勝弘《作品（ハート）》1963 年

展示室3 彫刻から立体へ

この展示室には 20 世紀後半の彫刻ないし立体作品を並べています。これまで彫刻の規範であった人の形から自由になるだけでなく、彫刻をつくる上での原理や手法、素材などが根本的に見直されました。その多様性をお楽しみください。

主な作品

- ・ **山口勝弘** 《作品（ハート）》1963 年
鋼鉄、麻布 181×130×43 cm
- ・ **ルイズ・ネヴェルソン**
《セルフ・ポートレート：サイレント・ミュージックⅣ》
1964 年 黒絵具、木 229×151.3×30 cm
- ・ **内田晴之** 《静止 82-1》1982 年
アルミ合金、永久磁石、鉛 210×153×35 cm
- ・ **斎藤義重** 《複合体 192-1・2》1983 年
ラッカー、木、ボルト 180×286×180 cm
- ・ **新宮晋** 《雲》1984 年 鋼線、不織布 250×250×250 cm
- ・ **新宮晋** 《花》1984 年 鋼線、不織布 240×64×64 cm
- ・ **榎忠** 《葉莢》1991 年
ミクストメディア 61.5×36.5×15 cm



5. 新宮晋《雲》1984 年

展示室5 ポップと彫刻

この展示室では、主にポップ・アートやその系統に連なる作品を展示します。それまでの彫刻のテイストと異なり、日用品を素材に使い、美術と日常との境にあった垣根を下げて時代とともに疾走する感覚にあふれています。

主な作品

- ・篠原有司男《モーターサイクル・ママ》1971年 アクリル、ポリエステル樹脂、段ボール 114.0×169×131 cm
- ・ジム・ダイン《植物が扇風機になる》1973～74年 アルミニウム、高さ67 cm (×3)、71 cm、73 cm、
- ・ジョージ・シーガル《ラッシュアワー》1983年 石膏、着色 183×244×244 cm
- ・ヤノベケンジ《FERRIS WHEEL》2007年 鉄、FRP、ネオン、ガイガーカウンター、プラスチック他 325×280×183 cm



6. 篠原有司男《モーターサイクル・ママ》1971年



7. 清水九兵衛《FIGURE11》1985年

展示室4 床への意識

彫刻の最後の部屋では、床に置く作品を展示しています。20世紀の彫刻の中には台座を必要としないものが制作されました。さらに、床との関係が重要な作品も登場します。それらをまとめてご紹介します。

主な作品

- ・若林奮《30, 31—酸素調》1973年 鉄 26×88×88 cm
- ・福岡道雄《波・北風》1978年 FRP、木 47×110×90 cm
- ・宮崎豊治《シンペンモデル・ユウシカイステーション》1979年 鉄 80×120×60 cm
- ・小清水漸《作業台—曲水—》1983年 木(桂)・水 116×116×70 cm
- ・清水九兵衛《FIGURE11》1985年 アルミニウム 79×212×167 cm
- ・植松奎二《置—浮遊の場》1989年 銅、鉄 280×40×51 cm



8. 植松奎二《置—浮遊の場》1989年

関連イベント

○学芸員による連続講座「近・現代彫刻」

日時：12月23日〔祝・金〕「20世紀後半の彫刻」

2017年1月14日〔土〕「20世紀前半の彫刻」

2017年2月11日〔祝・土〕「19世紀の彫刻」

いずれも15時～16時30分

場所：レクチャールーム（定員100名）

○ミュージアム・ボランティアによるガイドツアー

日時：会期中の金・土・日（12月30日を除く）13時～13時45分

集合場所：1階エントランス

※要観覧券（11月19日・20日は不要）・定員なし

○こどものイベント

「彫刻の世界を探検してみよう（仮称）」

2017年2月25日〔土〕10時30分～15時30分

要申込み・要参加費（詳しくは当館HPにて）

問合せ：こどものイベント係 tel.078-262-0908

小磯良平記念室

神戸生まれの小磯良平（1903～1988）は、近代洋画の代表的な画家のひとりです。確かなデッサンに裏打ちされた人物像は、今日もわたしたちを魅了させることでしょう。今回は、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、晩年に作品を分けて展示します。年齢によって変化する作風をご覧ください。

金山平三記念室

神戸生まれの金山平三（1883～1964）は、日本各地を旅して描いた風景画で知られています。季節の変化、土地の表情、そこに住まう人々の姿を繊細かつ情緒豊かに描きあげました。今回は、風景画、人物画、芝居絵など金山作品の多彩な表情を展示します。それぞれの特徴にご注目ください。

展示室5 安藤忠雄コーナー

当館は2002年に阪神淡路大震災からの「文化の復興」のシンボルとして開館しました。このコーナーでは、当館の結成を担当した安藤忠雄建築研究所から寄贈された建築模型、資料類などにより、当館および近隣のプロジェクトを紹介しています。

「ハナヤ勘兵衛の時代デェ!!」開催趣旨

ハナヤ勘兵衛（本名・桑田和雄、1903-1991）は、戦前から戦後にわたって兵庫県芦屋を中心に長く活躍した写真家です。

大阪市西区に生まれた桑田は、1920（大正 9）年、17 歳の時に父にカメラを買い与えられたことがきっかけで写真家になる決意をし、同年に大阪の写真機材商の見習いとなります。その後上海に渡り同地でも写真術を修行し、1929（昭和 4）年に芦屋に写真材料店を開業し、また自らの号を「ハナヤ勘兵衛」とします。翌年、芦屋を中心に活躍していた写真家の中山岩太をはじめ、紅谷吉之助や高麗清治らと「芦屋カメラクラブ」を結成し、当時世界的に勃興しつつあった新興写真運動の一翼を担うこととなります。その後関西の写真界を代表するひとりとして、戦後にわたって精力的に活躍しました。一方で写真機材開発として、後年「ミノルタ 16」となる小型カメラ「コーナン 16」の開発なども手がけました。

当館ではハナヤのご遺族から、戦前の日本を代表する写真作品のひとつである《ナンデェ!!》（1937 年）を含むヴィンテージ・プリントのほか、戦後に手がけられた関西各地の景勝地を撮影した風景写真パネル等の寄託を受けており、それら寄託品の中には、「芦屋カメラクラブ」で一緒に活躍した紅谷や高麗、松原重三らの作品も含まれています。

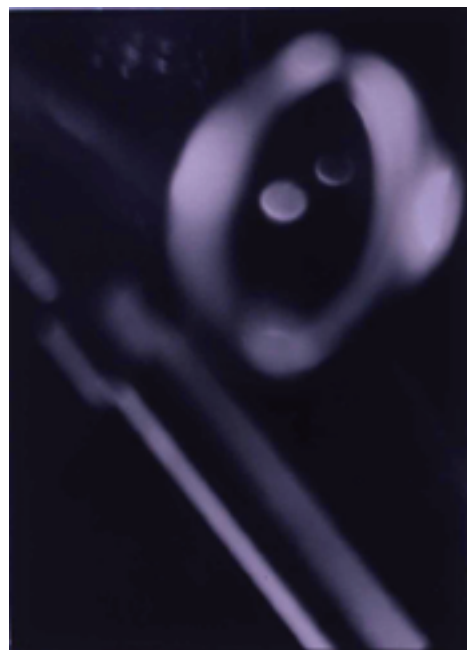
本展は、関西を代表するハナヤの写真家としての功績を、近隣の美術館の協力を得て開催するものです。近年では 1995（平成 7）年に芦屋市立美術博物館で展覧会が開催されましたが、本展はそれに続いたの久々の回顧展となります。

小企画 ハナヤ勘兵衛の時代デェ!!

協力
株式会社ハナヤ勘兵衛、芦屋市立美術博物館



11. ハナヤ勘兵衛《船C》1930年



10. ハナヤ勘兵衛《光A》1930年

出品予定作品

- ・ハナヤ勘兵衛《船C》1930年 ゼラチンシルバープリント
- ・ハナヤ勘兵衛《光A》1930年 ゼラチンシルバープリント
- ・ハナヤ勘兵衛《船B》1931年 ゼラチンシルバープリント
- ・ハナヤ勘兵衛《フォトモンタージュ（女とグラス）A》1933年
ゼラチンシルバープリント
- ・ハナヤ勘兵衛《フォトモンタージュ（今日も楽しい）》1933年
ゼラチンシルバープリント
- ・ハナヤ勘兵衛《ナンデュ !!》1937年 ゼラチンシルバープリント
ほか

関連イベント

○特別解説会

講師：山本淳夫（横尾忠則現代美術館学芸課長）

（ききて：相良周作（当館学芸員））

2017年1月22日〔日〕15時～16時30分

（午後2時30分より開場）

レクチャールーム、定員100名、聴講無料

○「関西文化の日」関連 学芸員によるギャラリートーク

11月20日〔日〕15時30分～16時30分

常設展示室6（ハナヤ勘兵衛展会場）

参加無料（当日は「関西文化の日」により常設展示室は無料）

○ミュージアム・ボランティアによるガイドツアー

日時：会期中の金・土・日（12月30日を除く）13時～13時45分

集合場所：1階エントランス

※要観覧券（11月19日・20日は不要）・定員なし

○こどものイベント

「写真の謎に迫る！カメラ・オブスキュラをつくろう」

11月19日〔土〕、11月20日〔日〕

11時～12時30分、13時15分～15時

申込み不要・要参加費（詳しくは当館HPにて）

対象：こども優先

問合せ先：こどものイベント係 tel.078-262-0908



12. ハナヤ勘兵衛《船B》1931年



13. ハナヤ勘兵衛《フォトモンタージュ（女とグラス）A》1933年



14. ハナヤ勘兵衛《ナンデュ !!》1937年

「関西文化の日」

関西が誇る豊かな文化に気軽に接していただく「関西文化の日」。当館では11月19日(土)・20日(日)に、多彩なイベントを開催します。「**県美プレミアム**」展は、**無料**でご覧いただけます。

お問い合わせ先

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目1-1[HAT神戸内]

TEL: 078-262-0901 (代表) FAX: 078-262-0903

<http://www.artm.pref.hyogo.jp>

取材・写真提供に関すること

営業・広報グループ

TEL: 078-262-0905 (グループ直通) FAX: 078-262-0903

展示内容に関すること

小企画「ハナヤ勘兵衛の時代デェ!!」

担当学芸員：相良周作

e-mail: sagara@artm.pref.hyogo.jp

特集「彫刻大集合」

担当学芸員：出原均

e-mail: dehara.h@artm.pref.hyogo.jp

いずれも、TEL: 078-262-0909 (学芸直通) FAX: 078-262-0913

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

◎同時開催の展覧会

○注目作家紹介プログラム チャンネル7

「高橋耕平一街の仮縫い、個と歩み」

2016年10月15日[土]ー11月20日[日]

○特別展

「日伊国交樹立150周年記念 世界遺産 ポンペイの壁画展」

2016年10月15日[土]ー12月25日[日]

○特別展

「アドルフ・ヴェルフリ 二萬五千頁の王国」

2017年1月11日[水]ー2月26日[日]

○特別展

「新宮 晋の宇宙船」

2017年3月18日[土]ー5月7日[日]

◎横尾忠則現代美術館での同時開催

○ヨコオ・マニアリズム Vol.1

2016年8月6日[土]ー11月27日[日]

○ようこそ!横尾温泉郷

2016年12月17日[土]ー2017年3月26日[日]

交通案内

阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から南に徒歩約8分

JR神戸線灘駅南口から南に徒歩約10分

阪急神戸線王子公園駅西口から南西に徒歩約20分

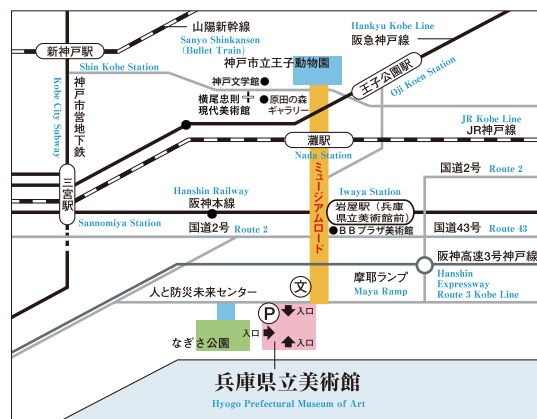
JR三ノ宮駅から、阪神バス「HAT神戸行き」、神戸市バス「101系統」

「29系統」にて約15分、「県立美術館前」下車すぐ

地下駐車場/乗用車80台収容・有料

※ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください。

※団体バスでお越しの場合は、バス待機所のご予約をお願いいたします。



広報画像申込書

営業・広報グループ 宛 FAX (078) 262-0903

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1 電話 (078) 262-0905 (直通)

ご希望の画像の番号に○をつけてください。後日データ (.jpg) をお送りいたします。

番号	作家名・作品名・制作年 など
1	ヤノベケンジ 《FERRIS WHEEL》2007 年
2	オーギュスト・ロダン 《オルフェウス》1892 年
3	コンスタンチン・ブランクーシ 《新生》1920 年
4	山口勝弘 《作品 (ハート)》1963 年
5	新宮晋 《雲》1984 年
6	篠原有司男 《モーターサイクル・ママ》1971 年
7	清水九兵衛 《FIGURE11》1985 年
8	植松奎二 《置－浮遊の場》1989 年
9	ハナヤ勘兵衛 《フォトモンタージュ (今日も楽しい)》1933 年 個人蔵
10	ハナヤ勘兵衛 《光 A》1930 年 個人蔵
11	ハナヤ勘兵衛 《船 C》1930 年 個人蔵
12	ハナヤ勘兵衛 《船 B》1931 年 個人蔵
13	ハナヤ勘兵衛 《フォトモンタージュ (女とグラス) A》1933 年 個人蔵
14	ハナヤ勘兵衛 《ナンデェ!!》1937 年 個人蔵

※上記作品画像を媒体掲載されるときには、記載の作家名・作品名・制作年などを必ず入れてください。
 ※作品画像は**全図で使用**してください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・改変はできません。
 ※画像データ使用は、**本展覧会の紹介用のみ**とさせていただきます。それ以外での使用はできません。(会期終了まで)
 ※再放送、転載など二次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。
 ※Web サイトに掲載する場合は必ずコピーガードを施してください。
 ※基本情報、図版使用の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で営業・広報グループまでお送り願います。

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ 『 TV・ラジオ・インターネット 』		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		F A X	
メールアドレス	@		
URL			
掲載・放送予定日		画像到着希望日	
読者・視聴者プレゼント用招待券 (最大 5 組 10 名まで) ※本展を媒体でご紹介いただける場合に限りです	組 名分希望		

※本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体 (VTR/DVD)、URL などを、
 上記営業・広報宛にお送りくださいますようお願いいたします。
 ※展覧会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。